

# 第4回 Beyondカンファレンス2025

日程:2025年4月25日(金)~4月26日(土) の2日間  
会場:淡路夢舞台国際会議場(兵庫県淡路市夢舞台 2番地)

主催:and Beyondカンパニー(事務局NPO法人ETIC.)  
共催:淡路ラボ

URL:<https://andbeyondcompany.com/>

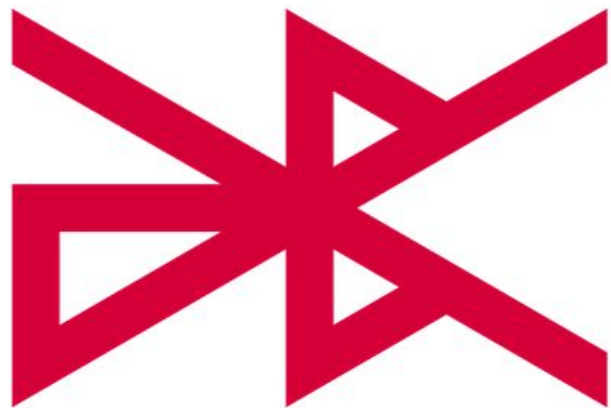


開催日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2025年4月25日(金)</li> <li>・2025年4月26日(土) の2日間</li> </ul> <p>※4月27日(日)は有志で他会場へ向かう事も構想</p>
場所	<ul style="list-style-type: none"> <li>●1日目:淡路島全土(共創フィールドダイアログ)</li> <li>●2日目:淡路夢舞台国際会議場、周辺公園利用も想定(兵庫県淡路市夢舞台 2番地)</li> <li>・B1Fイベントホール(シアター500席)</li> <li>・3F301(114席)311(120席)、4F405(70席)</li> <li>・茶室エリア</li> </ul>
定員	300人
運営	30人程度
参加形態	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主催共催企業社員・一般参加</li> <li>・共催・協賛・後援・メディアパートナー</li> </ul>
集客対象層	<p>「社会にインパクトを本気で起こす、共創相手を探したい人」</p> <p>企業、行政、NPO、社会課題解決を実践する全国のプレイヤー、企業は新規事業開発、人事(人材育成)、CSR、経営者</p>
開催目的	<p>立場や組織の垣根を越え、一歩先の未来を共に見る仲間と出会い、イノベティブに協業先を探せる探求・創作・体験の機会</p>

主催	<p>and Beyond カンパニー</p> <p>セイノーホールディングス株式会社、ロート製薬株式会社、マネックスグループ株式会社、江崎グリコ株式会社、アビームコンサルティング株式会社、株式会社YUIDEA、日本郵政株式会社、株式会社日立製作所、東京海上日動株式会社、日本航空株式会社、NPO法人ETIC.、ENEOSリニューアブル・エナジー株式会社</p>
共催	淡路ラボ
後援	兵庫県淡路県民局
メディアパートナー	電通PRコンサルティング

## 過去開催レポート

- 第3回 <https://andbeyondcompany.com/news/592/>
- 第2回 <https://andbeyondcompany.com/bc2023/report.html>
- 第1回 [https://bdl.ideasforgood.jp/event-report/beyond\\_conference\\_2022/](https://bdl.ideasforgood.jp/event-report/beyond_conference_2022/)



and Beyond Company

NEVER SAY NEVER  
ロート製薬

SEINO

ELECOM  
LIFESTYLE m INNOVATION

FELISSIMO

思いをかなかに 未来へつなぐ  
TAKENAKA

ABeam  
Consulting

すこやかな毎日、  
ほたかな人生  
Glico

MONEX GROUP

YUIDEA

日本郵政  
HOLDINGS

HITACHI  
Inspire the Next

ETIC

東京海上日動

ENEOS  
ENEOSリニューアブル・エナジー

MIZ  
株式会社ミズ

JAL  
JAL AIRWAYS

and Beyond カンパニー 参画団体 (2025年1月時点)

## Mission

意志ある挑戦が溢れる社会を創る

## WHO WE ARE

立場や組織の垣根を越えて繋がり、  
イノベーションを起こす  
バーチャルカンパニー

and Beyond カンパニーは、「意志ある挑戦が溢れる社会を創る」をミッションに、立場や組織の垣根を越えて繋がり、一人ひとりの妄想を形にしていくことを目指す共創コンソーシアムです。

いま、様々な組織において、どうイノベーションを生むかが課題になっています。イノベーションを生み出すのは、突出したリーダーだけではありません。未来はいつだって、誰かの妄想から始まる。

だからこそ、and Beyond カンパニーでは、未来を担う次世代のリーダーや社会起業家をはじめ、学生、企業、行政、NPO、どんな所属や立場の人でも、自由に発想し、垣根を越えて応援しあい、挑戦できる環境を提供しています。

## 意志ある挑戦が溢れる社会を創る

立場や組織の垣根を越え、一步先の未来を共に見る仲間と出会う。  
Beyondカンファレンスは、イノベーターに協業先を探せる  
探求・創作・体験の場です。

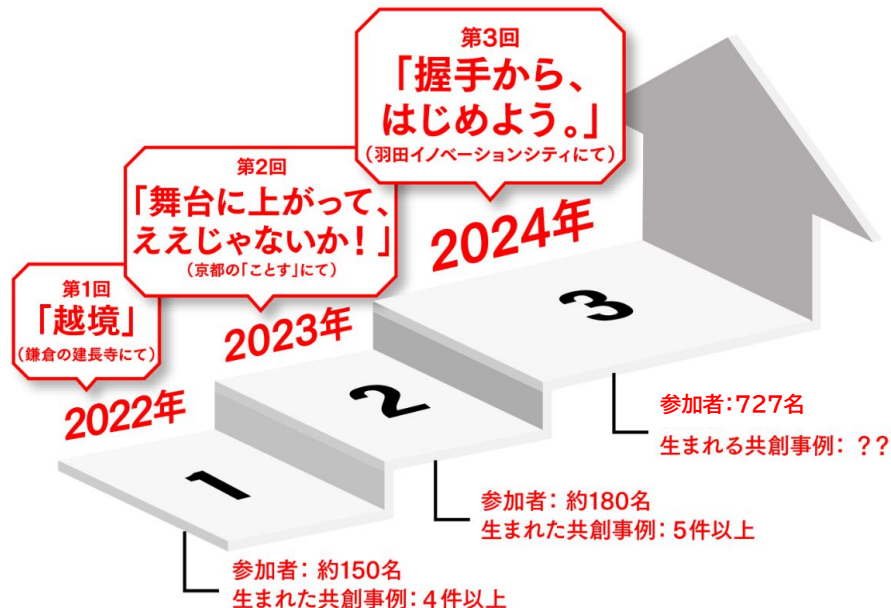
個を解放して組織をクリエイティブにする、  
創発型企業コンソーシアムによる年1回の祭典です。

WEB: <https://andbeyondcompany.com/>

年1回の、共創プロジェクトの見本市

## Beyond Conference (ビヨンドカンファレンス)

共創の輪を広げる年1回の祭典。多様なセクターによる共創事業が集結し、社会課題をテーマに協働する仲間を見つける。先駆けの取り組みからアイデア段階の企画まで実践者と共に学ぶ場です。



### ★ポイント1

#### 思考の枠を外す学び

海外の事例から、地方の事例まで。対極的な目線を持ちながら社会の本質に迫るセッションを多数開催。かたまりがちな思考の枠を外し、発想を転換するきっかけが得られます。

### ★ポイント2

#### 全力で応援される体験

異なる分野で挑戦中の方々が、一つの課題のもとに集まりアイデアを出し合います。批判やアドバイスとは違い、「いいね!」「おもしろいね!」が飛び交う応援の場です。

### ★ポイント3

#### ここにしかない出会い

名刺を配って回る交流会とは違い、キュレーションされて出会えることが特徴です。社会課題に取り組むリーダーをよく知る aBC 運営事務局が、“意志”と“意志”で皆様をお繋ぎします。

主催共催のメンバーに加え、セクターを越えて、課題解決や未来創造の意思をもって、何かを試行しようとしている、年代もバックグラウンドも多様なメンバーが集結します。

## (★Beyondカンファレンス2024参加者一部抜粋)

- 株式会社雨風太陽 代表取締役 高橋博之さん
- 株式会社竹中工務店 まちづくり戦略室 岡晴信さん
- ヤマハ発動機株式会社 企画財務本部経営改革アドバイザー 白石章二さん
- 江崎グリコ株式会社 経営企画本部 経営企画部 李美羅さん
- 日本航空株式会社 ソリューション営業本部 兼 社内ベンチャーチーム W-PIT 上入佐慶太さん
- ロート製薬株式会社 広報・CSV推進室 徳永達志さん
- アビームコンサルティング株式会社 小檜山歩さん
- エレコムヘルスケア株式会社 取締役 葉田甲太さん
- 公益財団法人葉田財団 PM 段原亮治さん
- 一般社団法人オルスタ 代表/国際栄養士 太田旭さん
- 東京海上日動火災保険株式会社 北村奈津子さん
- 株式会社良品計画 ソーシャルグッド事業部三浦卓也さん
- 東京大学先端科学技術研究センター森章研究室より研究員2-3名
- ミドリクNbS株式会社 代表取締役関隆史さん
- 株式会社エーゼログループ Chief Research Officer松崎さん
- やまね酒造 若林福成さん
- クリーンオーシャンアンサンブル代表取締役江川裕基さん
- 株式会社ビーコン 廣田諒さん
- 段原亮治さん
- 公益財団法人 地球環境戦略研究機関(IGES)安家叶子さん
- いきものクラブ 許斐有希さん
- WWF Japan 内藤由理さん
- WWF Japan 安村茂樹さん
- 「土中環境」提唱者 高田宏臣さん
- 知床財団 事業部長 山本幸さん
- 長谷川裕さん
- 任喜史さん
- 株式会社御城川代表取締役 森山奈美さん
- NPO法人bankup代表 中川玄洋さん
- 輪島の若者 山本亮さん
- 大阪公立大学(行政危機管理マネジメント)菅野拓さん
- 山梨大学(縮小社会におけるインフラ)西田さん
- ドルトン東京学園(中高)佐藤充恵さん
- 株式会社丹青社 文化空間事業部地域創生支援室 鎌田隆志さん
- 株式会社丹青社マーケティング・サステナビリティ統括部 地域創生支援室 大竹 悠介さん
- 他

コンセプト

---

# 研ぎ澄ます

複雑に絡み合い、深刻さを増す社会課題。

「他社だから」「立場があるから」「言語や文化が違うから」  
そんな"見えない壁"は取り払い、"意志"でつながり「共創」を起こしてきた。

共創のはじまりは、誰かの意志、誰かの思いへの「参画」。

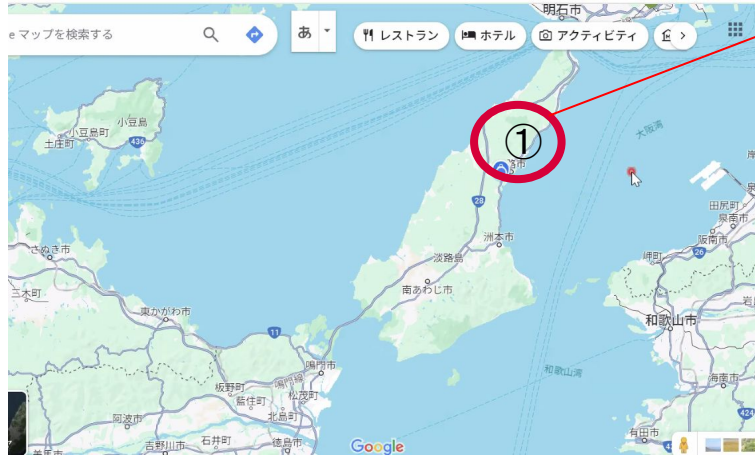
国生み神話に由来する日本のはじまりの地・淡路島で、  
10年先、100年先の未来を想像して、より研ぎ澄まされた選択をする先に、  
見えてくる世界があることを、私たちは確信している。

たくさんの出会いから、新たな共創が生まれる。  
思考を開放する2日間、淡路島で会いましょう。

## 淡路島全土、そして淡路夢舞台国際会議場を想定しています。

	(名称)	(用途)
DAY 1	淡路島全土15か所	フィールド・ダイアログ (淡路島プレイヤーの現場+車座)
	会場・各エリア	ネットワーキング バーベキュー
	ホテル客室210室	希望者宿泊場所
DAY 2	晴天：淡路島国営明石海峡公園 雨天：淡路島夢舞台国際会議場	Open Space テクノロジー 渦潮セッション・分科会
	B1イベントホール	共通セッション・渦潮セッション
	3 F 301 (114席)	渦潮セッション
	3 F 311 (120席)	渦潮セッション
	4 F 405 (70席)	渦潮セッション
	茶室エリア	こうご期待!





## 「淡路夢舞台国際会議場」

- 北部で交通の便がいい(大阪から60min、徳島/鳴門から60min)
- 2025年万博会場から船がでる
- 隣接するホテルがある
- 1日目:
  - 淡路島全土(共創フィールドダイアログ)
- 2日目:淡路夢舞台国際会議場、周辺公園利用も想定(兵庫県淡路市夢舞台 2番地)
  - **主会場: B1Fイベントホール(シアター500席) + 島内**
  - **他会場: 3F301(114席)311(120席)、4F405(70席)、茶室エリア**
  - ホテル客室210室



Day1では、フィールドダイアログ先の現地プレイヤーやほかの参加者との対話により、現点や想いを研ぎ澄まし創発の種を見出します。

time	淡路夢舞台 国際会議場(500席)	淡路島全土	バーベキュー会場	ホテル	各自宿泊施設
13:00	オープニング セッション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グランドルール・コンセプトのご紹介</li> <li>・この場を一緒にいただく方々や特別ゲストによるトーク</li> </ul>			
14:00	移動				
15:00	フィールドダイアログ(180分) 12グループ×12か所 バス4台で移動  【コーディネーター×焚き付け役】		<ul style="list-style-type: none"> <li>・淡路島全土を舞台に、それぞれのフィールドで多様なテーマに取り組む現地プレイヤーを訪れる</li> <li>・そのお話や現地での体験などを皮切りに、参加者それぞれの想いを車座で対話</li> <li>・それぞれの原点や想いを研ぎ澄ますとともに、翌日の「渦潮セッション」に向けて、他者との対話の中から、新たな創発の種を見出していただく</li> </ul>		
18:00	移動				
18:30			ネットワーキング & 交流会 バーベキュー		<ul style="list-style-type: none"> <li>・淡路島の魅力的な食材を囲みながら、参加者同士での交流を深め、さらに創発の種を見出していただく機会</li> <li>・4会場での分散開催ののち、ホテルに移動し、さらに全体でのネットワーキング &amp; 交流会が続く</li> </ul>
20:30	移動				

Day2では、セッションオーナーからの話題提供・問題提起に対して、立場・セクター、さらにはセッションオーナー同士もかき混ぜりながら、「共創」に向けた参加型のディスカッションを行います。

time	淡路夢舞台国際会議場					淡路島
	ルーム1 (250席)	ルーム2 (250席)	ルーム3 (114席)	ルーム4 (120席)	ルーム5 (70席)	国営明石海峡公園
9:00	共通セッション		<ul style="list-style-type: none"> <li>・Day1のラップアップ</li> <li>・Day2の使い方、その先に目指すことなど</li> </ul>			
9:50	第1ターム:インプットセッション×2回					<ul style="list-style-type: none"> <li>・渦潮セッションに向けて、共創へのアクション、場への提案など、</li> <li>・セッションオーナーからの話題提供・問題提起に対して、様々な立場の方がかき混ぜりながら、「共創」に向けて参加型のディスカッションを行う</li> </ul>
10:45	第2ターム:渦潮セッション					
12:00						<p><b>第3ターム:</b> ランチ&amp;ネットワーキング ※4,5名での交流を想定 (max.30名の区画×7箇所)</p>
14:30	第4ターム:渦潮セッション					
16:00	プロジェクトピッチ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・aBCDAO/DigDAOプロジェクトの90秒ピッチなど</li> <li>・数名でのチェックアウト</li> </ul>				
17:30	クロージング					

法人名:特定非営利活動法人 ETIC.(エティック)  
(Entrepreneurial Training for Innovative Communities.)

設立:1993年

法人化:2000年

年間予算:9億7000万円(2021年度)

スタッフ数:124名(うち専従50名)

所在地:東京都渋谷区東1丁目1-番36号 キタ・ビルデンス 402

※関東在住6割、その他地域に4割在住

※ほぼ完全在宅勤務中

法人名:淡路ラボ事務局（株式会社次世代共創企画）

設立:2020年9月2日

構成員数:2名

所在地:〒656-2131 兵庫県淡路市志筑

団体の目的:

淡路島から持続可能な日本の未来社会モデルをつくり、100年先の世界に貢献すること。淡路島に暮らし働く若者世代と、関西を中心とする都市圏の中小・ベンチャー企業の経営者、その社員や大企業リーダー、島外の大学生(留学生を含む)が関係人口として交流・学び合い、地域のみならず日本の未来や持続可能性に資する新しい事業やプロジェクトを共に創るための学びと挑戦機会を作る。

イメージがつかない！という声を受け

実績  
参加者の声とデータで読み解く

# Beyondカンファレンス

---

を作ってみました

# 過去3回の実績

開催年/ コンセプト	スローガン	参加人数	登壇企業・団体(抜粋)	テーマ	セッション(抜粋)
2022年「越境」 会場:鎌倉 	「越境で変わる人・コト・組織。ひとりでは、たどり着けない場所へ。」	約150名	トークセッション 「持続可能社会と個人のウェルビーイングの実現に向けて」 ・山田邦雄氏 株式会社ロート製薬 代表取締役会長 ・小巻亜矢氏 株式会社サンリオエンターテイメント代表取締役社長 ・柳澤大輔氏 面白法人カヤック 代表取締役CEO	・防災 ・生物多様性 ・共創 ・越境	・「森林維持のあり方を大転換！森を守り環境を保持する森あそびラボ」 ・「都市と地方をごちゃ混ぜにして日本の当たり前を書き換える！～多拠点居住推進の新サービス・政策提言～」 ・「社内で自己実現していくためのペロリ術」 ・「組織やセクターを超えて、学び合うBeyondワークの実現」 ほか 多数
2023年「コレクティブ」 会場:京都 	「舞台上がって、ええじゃないか」	約180名	オープニングセッション 「50年後の未来を想像し、“自分たちは次世代に何を残したいか？”」 ・中嶋 愛氏 スタンフォード・ソーシャルイノベーション・レビュー 日本版 編集長(当時) ・本間 奏氏 認定NPO法人フローレンス	・教育 ・生物多様性 ・共創 ・ヘルスケア	・公教育と民間企業の共創を進化させるための作戦会議 ・ネイチャーポジティブの担い手が育まれるエコシステムを創るアイデア交換会 ・やりたいことから考動する！共創とつながりの「場」づくり ・健康・いのちを巡る課題を越境事業で解決しよう ほか 多数
2024年「叡智」 会場:羽田 	「握手からはじめよう」	約730名	オープニングセッション 「共創大転換！～イノベーションを生む「ゆるめる」「おもしろがる」～」 ・入山章栄氏 (早稲田大学大学院経営管理研究科、早稲田大学ビジネススクール 教授) ・原田英治氏 (英治出版株式会社 共同創業者)	・防災 ・生物多様性 ・共創 ・地方創生	・能登から日本のあり方を問う ・生物多様性をめぐる現在地と展望 ・イノベーションを起こす企業間共創とは？ ・実践者のピッチ&ともに考えるワールドカフェ/地球環境の再生・ネイチャーポジティブの担い手100人会議 ・さとのば大学と共に地域から日本を盛り上げる ほか 多数

## グランドルールがある

「意志ある挑戦が溢れる社会をつくる」ため、「共創」を生み出すグランドルールを設けています。

1

所属や肩書を外して、人と出会おう話してみよう！

2

自らも挑戦し、そして全力で応援する！

3

批判やアドバイスより共感や「いいね！」と口に出そう！

4

「役立つ」よりも「楽しそう」や「気になる」を大切に。



## 過去の参加者からの声

社会課題に対して、企業や団体としてではなく、自分がどう思っているのかを求められ、自分の意見を素直に表現出来る気持ち良さがありました！

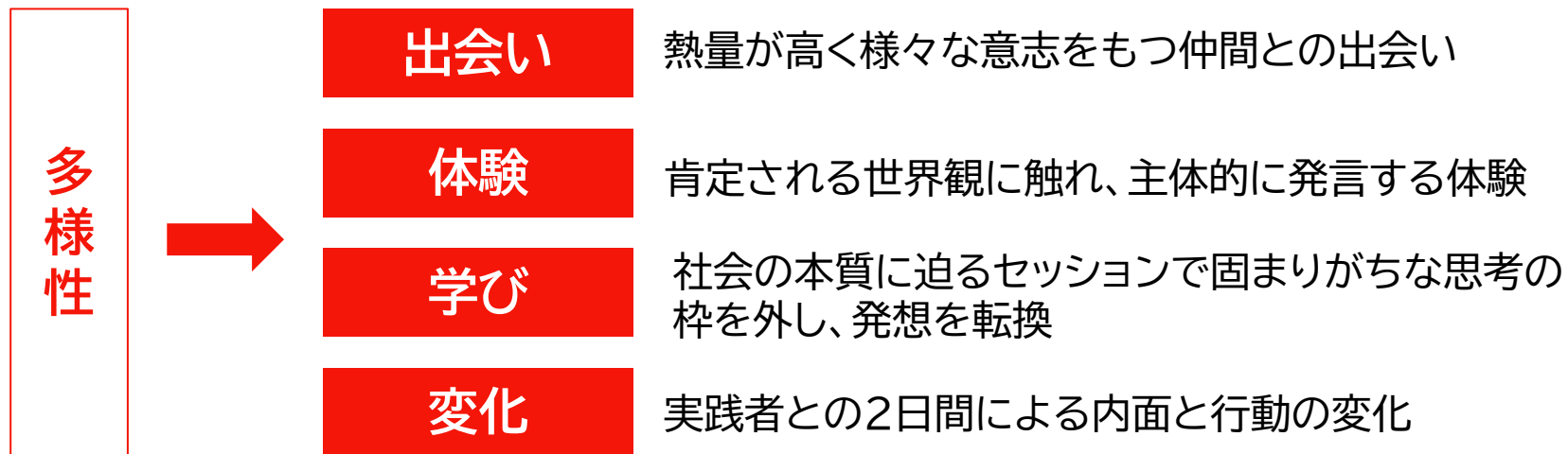
登壇者の方々のディスカッションの途中で、「参加者にも社会課題活動を進める為にどう協力して貰うのが良いのかを聞こう！」となって、参加者の方が登壇して一つになって、課題に向けてどう解決に向けて行動していくかを話していくのがとても面白かったです！

仕事とは全く異なる物事の進め方に驚き、勉強になる部分が多くありましたし、主体的に行動する事を登壇者、参加者、運営の方達とのやり取りから学ぶことが出来ました！

どのように社内で社会課題活動を進めて行けば良いか分からなかったですが、様々な社会課題活動をされている方達と出会い、共創する事で自分たちでも主体的に社会課題活動を推し進めていける状況になりました！

# どんな所が魅力なのか？

2日間の中で、多様性とカオスが生み出す4つの価値が見えてきました



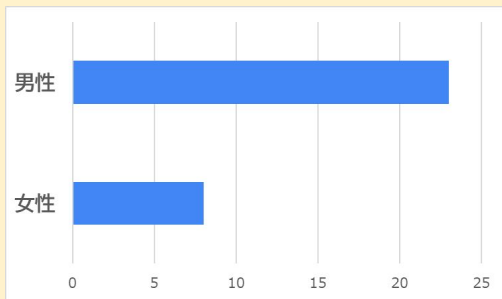
# 多様性

\*Beyond カンファレンスの参加者へのアンケートからの抜粋(n = 31名)

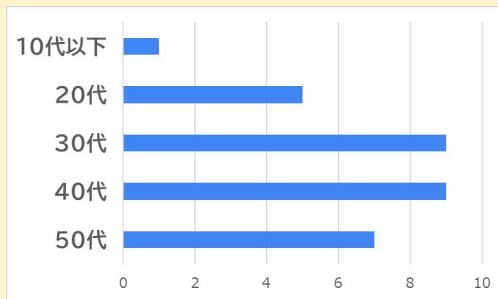
Beyondカンファレンスは立場や組織を超えた個性が集まる場所になっている！

## 多様性

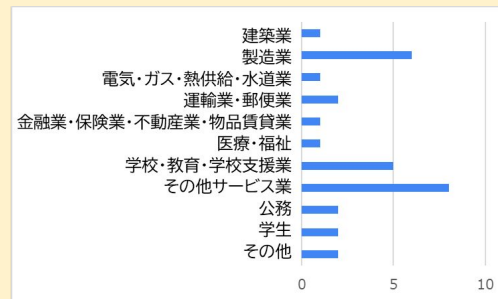
### 性別



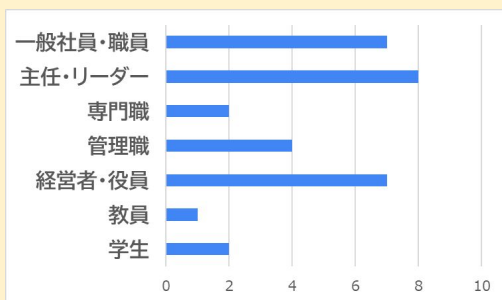
### 年齢



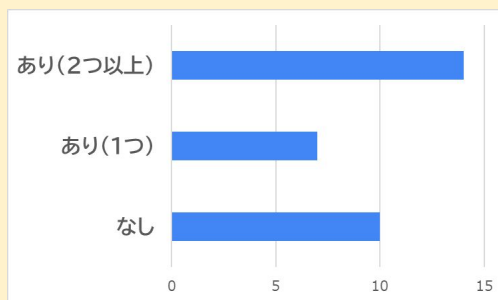
### 業種



### 役職



### 活動数(本業以外)



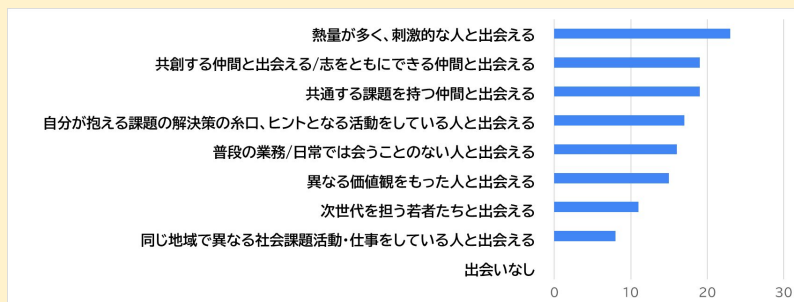
# アンケート結果

\*Beyond カンファレンスの参加者へのアンケートからの抜粋(n = 31名)

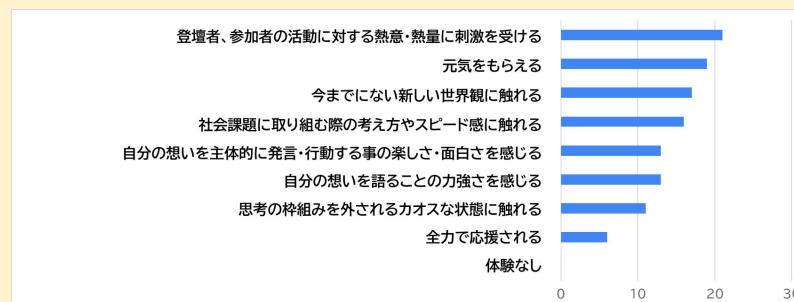
参加者の多くが、ここでしか得られない「出会い・体験・学び・変化」を実感している！

## アンケート結果(複数選択)

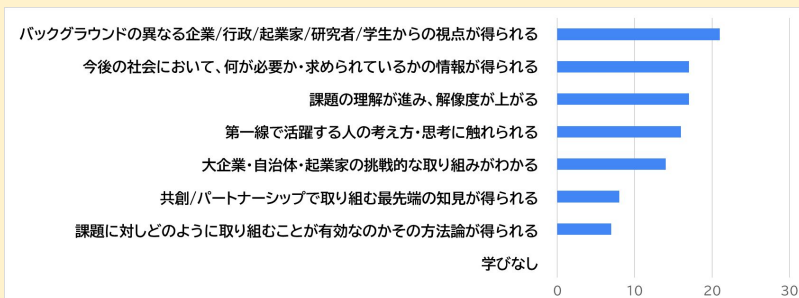
カンファレンスでの【**出会い**】について聞かせてください。



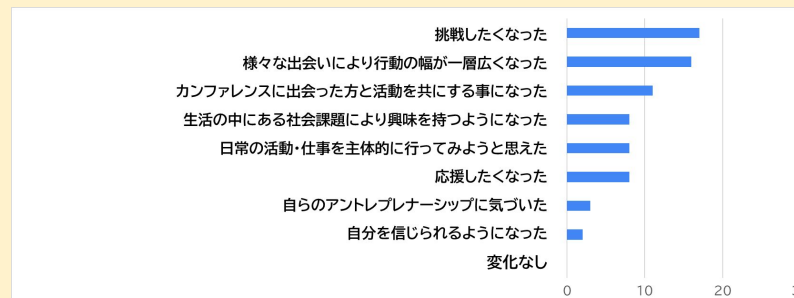
カンファレンスでの【**体験**】について聞かせてください。



カンファレンスでの【**学び**】について聞かせてください。



カンファレンスへの参加によって、どのような【**変化**】が生まれたか聞かせてください。



## 登壇者/参加者から見た価値(インタビュー①)



名前:小池佳穂さん  
肩書:会社員  
所属:アビームコンサルティング  
株式会社

経緯:  
学生のころから社会課題活動に関心を持ち、社会に出ても接点を持つ  
場を模索。社会人1年目の2023年から運営側として実行委員への参画  
を立候補し、2024ではカンファレンスの司会を行う。

### 体験

## 普段の業務とは全く違う別世界だった

特に驚いたのは、役職や業種に関係なく、誰もがフラットに議論できることでした。  
例えば、大企業の部長クラスの人と、学生やフリーランスの人が同じテーブルでディスカッションを  
していて、“社会課題について、あなたはどのように考える？”と意見を求められるんです。  
こうした体験は、通常の業務ではあまりない機会なので、すごく刺激的でした。

### 変化

## 1年目でも、自分で考えて動けるようになった

2023年時点では、私は入社1年目ということもあり、通常の業務ではリーダー的な役割を担うことは  
まだありませんでした。一方、本カンファレンスではコンテンツ事務局を担当し、週次ミーティングや事務局を  
リードする機会を得ました。“担当している目の前のタスク”だけでなく、“何をいつまでに事務局として  
行うべきか？”、“どうやったらうまく進められるか？”を自分で考え、主体的に動くことの大切さを学びました。

## カンファレンス前

大学時代から社会課題には関心があったが、会社に入ってから、どのように関わることができるのか、イメージがついていなかった。



## カンファレンス後

ETIC.の方達や、サステナビリティ・社会課題に関わる人と出会い、様々な取り組みを知った。仕事を通じて出来ることを探しながら、個人としても積極的に関わりたいと思った。

### カンファレンス後の活動

- ・Beyondカンファレンス2024にて社内の別事業部のチームを巻き込み、カンファレンスで出会った防災関連企業や団体の方とのコンテンツ出展をサポート
- ・社内でのBeyonders(3か月間の越境プログラム)への参画推進・パネルトークイベント企画

## 登壇者/参加者から見た価値(インタビュー②)



名前:木戸健太郎さん

肩書:会社員

所属:ENEOSリニューアブル  
・エナジー株式会社

経緯:

2022年に別業界から地域共創推進部へ転職。畑違いの分野で「価値ある地域貢献を行う」ためには何から始めてよいか検討していた際、ETIC.に相談。Beyondカンファレンス2024の紹介があり、参加。

### 体験

## 動き出しのスピード感が全く違う。常識が異なる世界を知った

カンファレンスで出会った人たちは、ジャストアイデアの段階でどんどん動いて、ダメだったら次に行けばいいっていう発想なんです。所属組織で考えるチャレンジの時間軸と全く異なりました。カンファレンスでは、“やりたいならやれば？” “巻き込んでどんどん進めれば？” っていう空気が当たり前で。その場で会話をしながらやることが明らかになっていく。その違いに驚いたし、すごく刺激を受け、社会課題にどう取り組むかを考えるうえで、当時の私には大変助かりました。

### 変化

## 止まったら死ぬと思ってる

元々全然行動力がないし、はっきり言って人見知りだし、集団よりも一人で家で何かしてる方が好きなタイプでしたよ(笑)。でも、カンファレンスに参加して、いろんな人と出会って、考え方が一気に変わりましたね。自分が何かを止めてしまうと、これまで積み上げてきたものも止まってしまうんじゃないかという危機感がある。だから走り続けているんです。

### カンファレンス前

地域貢献の立案実行をしてきた経験が無かった為、どう進めて行けば良いのか分からないまま時間だけが過ぎてしまっていた。



### カンファレンス後

実際に行動を起こしている方達と出会い、その熱量に触れ、参加者の方達と共創する事で、いくつものプロジェクトを立ち上げ、活動中。

#### カンファレンス後の活動

- ・奨学金制度の拡充(奨学金受給中の高校生向けオンラインサロン創設)
- ・自社制作の学習コンテンツ付ノートの無償提供を通じた全国の小学校間交流の機会創出



## 登壇者/参加者から見た価値(インタビュー③)



名前:東井孝允さん  
肩書:会社員  
所属:株式会社メディア  
アジーン

経緯:  
2023年12月31日から穴水町の実家へ帰省中に能登半島地震が発生し、被災。  
「東京にいて何もできない」「忘れてしまう」経験から地元の復興を目指し団体を立ち上げ。その後、Beyondカンファレンス2024へ誘いがあり、登壇へ。

### 学び

## かき混ぜることが価値

どんな人もリアルでかき混ぜって共創する。それが、このカンファレンスの価値だったと思います。  
例えば、登壇が終わった後にスペイン人の参加者と話したんですが、“能登のニュースって、なぜこんなに海外で知られてないんだろう？”って聞かれたんです。実際に、スペインでは能登の地震が2日間しか報道されなかったって。  
こういうことってカンファレンスに行って、リアルで話して初めてわかることですよね。東京一能登に拠点を置く人たちとも、緩やかなつながりができ、短期的な取り組みから中長期的な課題解決まで共に取り組めるキーマンやパートナーと出会うことができました。

### 変化

## 能登の復興を超えて、地域課題の解決へ

カンファレンスに出て気づいたのは、能登の復興って単なる”被災地支援”じゃないってこと。  
日本全国の地方が抱える、二地域居住や交通問題、地域経済の課題とつながっている。  
だから、自分の役割も”地元の復興”から”地域課題の解決”へと広がっていったんです。

### カンファレンス前

被災から半年が経ち、長期的な支援として能登復興には都市との連携が不可欠だが、その橋渡しをする仕組みがなく、地元から自主的に行政への提案などを行っていた。



### カンファレンス後

東京を拠点とする能登出身者が集まり、情報共有や支援活動を行う団体を発足し、都市部にいる能登に関心を持つ人々を巻き込む体制を作れた。

#### カンファレンス後の活動

- ・カンファレンスで出会った能登出身で東京で生活する方達と「能登ヨバレ@東京」を発足し、長期的な視点で復興を支える活動を開始
- ・70名以上の東京在住の能登出身者などが登録。東京×能登で交わるイベントを奥能登で企画中

## 登壇者/参加者から見た価値(インタビュー④)



名前: 溝上泰興さん  
肩書: 経営者  
所属: 株式会社ミズ代表  
取締役

経緯:

はじめは強引に誘われました。創業115年4代目、ずっと薬屋であり続けるが、各代ごとに事業をフルモデルチェンジしている。イノベーションを標榜しているが、もっと起こしていきたいと思い、他流試合をしようと思っていたら良い場所があるよとBeyondカンファレンス2023から参加へ。

### 出会い 本気で世の中を良くしようとしているやつらが、こんなにいた

本気で世の中を良くしようとしているやつらが、こんなにいた、ということを知れたことが大きかったですね。僕はやっぱりオーナーなので、会社の中ではそこその熱量でやるわけですけど、外にたくさんの優秀な人たちがこんなに熱を込めてやっている、っていうのを知れたのがすごく衝撃だった。企業の中にも会社の肩書じゃなくて、個人の熱量とアジェンダでチャレンジしている世界を見せてもらいました。

### 体験 自分の考えを言語化し、解像度を高める場

やっぱり何を聞くかよりも、自分がどう考えるかっていうのが大事で、その中で、例えば第三者に自分はこう感じたとか、こういうことをやりたいと思ったんだとか、そういうことをアウトプットして、自分の中でも整理もするし、決意を固めるっていうプロセスだったと思うんです。そういうのが自然に出来る環境があるんです。社員にも研修で「行っておいで」と行かされる場ではなく、「行きたいです」と言ってもらい、参加する場ではないかと思っています。

### カンファレンス前

創業115年4代目。多角的な事業展開を行い、事業は安定していたが、社内でイノベーションが生まれにくいという課題があった。



### カンファレンス後

ミス・アカデミープロジェクト/ミス・アカデミー準備室を立ち上げ・設立し、社内・社外を問わず挑戦を生む取り組みを開始。

#### カンファレンス後の活動

- ・社員も巻き込んで社内で『全力応援ミーティング』を開始。社外の人も巻き込み”ここに持っていけば何かが生まれる場”に
- ・地域社会との連携イベントを実施し、ローカルの活性化

## 登壇者/参加者から見た価値(インタビュー⑤)



名前: 倉辻悠平さん  
肩書: プロジェクトリーダー  
所属: NPO法人ETIC.

経緯:  
2018年にNPO法人ETIC.に参画。Beyondカンファレンス2022の実行委員に携わり、カンファレンス2023、2024は立ち上げたプロジェクト(PLANET KEEPERS)の発起人としてセッションを設計する。

### 出会い 関係性の質が変わる

フィッシャーマン・ジャパンのはせたくさん、サステナビリティセンターの太齋さんなど、元々関係はあったけれど、今回のカンファレンスをきっかけにより深く関わることができ、正式なパートナーシップをお互いに結ぶことになりました。“知り合い”から”共に活動するパートナー”へと関係が進化したんだと思います。

### 学び お互いの視点を言葉で翻訳すること

企業・研究者・地域実践者の視点には、違いがあり、企業の人に対しては”これは社会的意義があるだけでなく、企業のブランド価値にも貢献できます”と伝える。研究者には”この実践をデータ化すれば、科学的な知見としても価値がある”と伝える。そうすると、それぞれが共通の目的を持ちやすくなるんですね。

### カンファレンス前

プロジェクトを進めて行く上で企業・研究者・実践者との関係構築は必要だと考えていたが、どのように巻き込むべきかを模索していた。



### カンファレンス後

多くの参加者が共感し、応援してくれたことでこの場で得たつながりを活かし、新たなアクションを起こすことが自分の役割だと考えを改めた。

#### カンファレンス後の活動

- ・漁業支援を行う”Fisherman japan”が共同発起団体としてPLANET KEEPERと連携
- ・これまで漠然とした繋がりがあった東北大学のネイチャーポジティブ研究チームと具体的にどう連携できるかを検討するフェーズへと移行